

## 「苗半作」

### 「親の意見とナスの花には千にひとつも無駄はなし」

校長 前田 達彦

私の想いを皆さんに伝えます。「苗半作（なえはんさく）」と読みます。日本の稲作文化の中からできた言葉ですが、野菜栽培においても使われます。大根やニンジンのように、根を利用する根菜類を除いて、多くの野菜は通常、ポリポットやセルと呼ばれる入れものを利用して、いったん苗を育て、良い苗だけを畑に定植するのが一般的です。

農家の方々は、温室やビニルハウス等の環境の良いところで、大事に大事に苗を育てていきます。様々な苗管理を手厚く行います。なぜかという、「苗半作」という考え方があるからです。

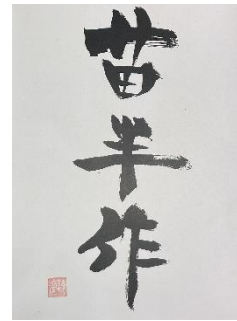
畑に植える時の苗の良し悪しが（つまり苗の出来具合が）、その後の生育や収穫量に大きく影響を与え、良い苗を育てれば、半分はうまくいった、品質のよい、たくさんの収穫が期待できる、という意味でつかわれるのが「苗半作」です。

この「苗半作」の意味を知って、想像したことは、私もかつて、皆さんと同じように高校生のときがありました。間もなく61歳になる今でも、高校までの出来事や体験は、今の自分の基になっていると思います。

振り返ると、生まれてから、幼稚園・小学校・中学校・高校生までは、「大事に育てられた期間だった」と気づきます。皆が同じ状況や環境とは言えないかもしれませんが、多くの人は、周囲に守られ、助けられ、もし、道からそれそうになったら引き戻してくれる。やろうと思えば勉強もスポーツも文化的活動もできる、食事も準備してもらえた、弁当まで作ってもらえた、風邪をひいたら病院に連れて行ってもらえ、看病してもらえた。まるで、温室で、大事に育てられた苗みたいだと思えるのです。

植物は、しっかりと大地に根を張り、茎を伸ばし、葉を広げて、充実した成長ができれば、少々の害虫や病気に耐え、容赦なく雨風に吹かれる「外の畑」に出てもほぼ大丈夫です。人に言い換えれば、厳しくも優しくも、大事にされながら、高校までにしっかりと学び、成長できれば、「社会」に出て、いろんなことに揉まれようが、少々の壁にぶつかろうが、大丈夫、乗り越えられる、と思えるのです。つくづく、高校生である皆さんは「今が大事なのだ」ということを感じます。苗づくりも人づくりも、一生のうちの初めが肝心ということです。人生を、稲や野菜の栽培歴に例えるのは、少し乱暴な言い方かもしれませんが、命あるものの成長過程において、何か教訓をあたえてくれているのかもしれない。「苗半作」、皆さんも考えてみてください。

ところで、私も自宅でよく野菜を栽培します。本校玄関前の野菜園にも野菜が栽培されています。そのひとつに「ナス（ナスビ）」があります。今、話したように良い苗を選抜し、鹿に食害されず、環境が良く、正しく栽培すれば、花が咲いてやがて実を付けます。ナスの花は咲いただけ、ほぼ確実に実を付けます。つまり、無駄な花は一つもない、と昔から言われています。



「無駄がない」に関連していえば、次のような話があります。皆さんを支えてくれる、一番の応援者であり、理解者は、もちろん保護者の方です。両親、お父さん、お母さん、親代わりで育ててくれた方、あるいは、じいちゃん・ばあちゃんかもしれない、いずれにしても親の言うことと、その教えには、「一つも無駄はない」、すべて正しい、とか、それに従えと言っているのではなく、何か意味があって、皆さんの幸せを願って言っているわけで、これらに、素直に耳を傾けることが大事であるという話です。

この2つのことは、昔から次のように言われています。

「親の意見とナスの花には、千にひとつも無駄はなし」という諺(ことわざ)です。いろんな経験を積んだ親の意見は、子供にとって何ひとつ無駄な話はない。咲いただけ実になるナスには、無駄な花は一つもない、この共通点からそう言われるのです。

「親の意見とナスの花には、千にひとつも無駄はなし」どうか皆さんも考えてみてください。親や先生方の話に耳を傾ける素直な心を持ってほしいと、切に願っております。

高校3年間は、人生の中で「輝ける時代」です。同時に将来の基盤となり、また人生の起点ともなる時期でもあると思います。ですから、高校生としての、「限られた持ち時間」を有効に使ってほしい、目標をもって「自考実践」をしてもらいたい、そして、やがて大きな花を咲かせてほしいと願っています。

第2学期のスタートに当たって、今、話したことを皆さんが少し意識しながら、それぞれの夢や目標に向かって「日々精進」しながら、前に進んでほしいと期待します。

(第2学期開始式 校長講話より抜粋)